

読者PRESENT

美濃和紙を使い、ちょっとした感謝の気持ちを伝えるのにぴったりの一筆箋と、折ると花束の形になる一筆箋をつくりました。いずれも「小さな親切」運動のオリジナルデザイン。大型文具店などで大人気の「古川紙工(株)」製です。3種類を1セットにして、5名様にプレゼントします。

**応募方法:** 「氏名」「住所」「年齢」「本誌の感想」をご記入の上、FAX(03-3263-3838)または応募フォームよりご応募ください。

**締め切り:** 2022年12月16日(金) 必着。  
当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。



応募フォーム



全国の活動紹介  
かまぼこ板に描かれた席譲り  
愛媛発

愛媛県民なら知らない人はいない、といわれるほど県民に広く親しまれている「かまぼこ板の絵」展覧会(主催…愛媛県西予市)。審査員をつとめる洋画家・折笠勝之氏が、西予市立美術館「ギャラリーしろかわ」を訪れた際、「絵はいつでも誰でも描ける」と、かまぼこ板に油絵を描いたことがきっかけで始まりました。



賞状を手にする堀内さん  
「小さな親切」運動受賞作品  
「電車の中で」

愛媛県本部(事務局・伊予銀行)では今年度、発足40周年を記念し、この展覧会で、「小さな親切」をテーマとした作品を募集。松山市立石井小学校3年(応募当時2年)の堀内優希さんが、

見事「小さな親切」運動賞を受賞しました。「親切」をイメージして描いたのは、電車の中でお年寄りに席譲りをしていく場面です。  
親切に気づいた堀内さんも、きっと席譲りができる親切さん。受賞おめでとう!

最新の「カタカナ用語」を覚えよう  
福井発



新型コロナウイルスの流行による働き方や価値観の変化によって、次々とカタカナ用語が生まれています。

鯖江支部(事務局・市教育委員会)では、お年寄りや子どもたちにもわかりやすく、最新ワードを覚えてもらおうと、『知っておきたいカタカナ用語』と題した解説集を作製しています。2020年に発行した第1弾が大好

さんに、感謝の気持ちを贈りたいと、7月7日に県本部役員らが竹田市役所を訪問。土居昌弘市長に「感謝状」を贈呈すると、市長はとても喜んでくださいました。これからは市民の皆さんの力で、地域の美しい景観を守り続けられることを期待しています。

市内共通ポスターであいさつを呼びかける

北海道発

岩見沢支部(事務局・市教育委員会)では、中央本部作製の「のぼり」や「たすき」などの活動グッズを市内の小中学校へ配布し、あいさつ運動に取り組みでもらっています。今年度、市内の小中学校では共通のポスターを作り、「マスクの下の笑顔」が伝わるよう、明るい声であいさつをしようと、呼びかけています。



マスク越しでも笑顔が伝わりま

マスクで表情が伝わらないからこそ、声の力に気がついた子どもたち。明るいあいさつで、コミュニケーションをさらに深めてくれることでしょう。

お知らせ

■県代表就任  
群馬県本部代表 後藤明弘

■寄附者「芳名(敬称略・順不同)」  
群馬県 片亀歳晴

創立60周年記念「未来へつながる心づくり寄附金」申込書

2022年 月 日

氏名 (ふりがな)	年齢	歳
団体・法人名	担当者名	
住所 〒		
連絡先 TEL	FAX	
E-mail		
寄附金額 円	振込先	みずほ銀行 九段支店 普通預金口座 1298186
(振込予定日 月 日頃)	チャ) チイサナシンセツ ウンドウホンブキフキングチ 公益社団法人「小さな親切」運動本部寄附金口	
会員の有無 (☑印をつけてください)	☐ 会員 (会員番号: )	☐ 非会員

ご寄附いただいた皆様には、毎年2月発行の作品集(作文コンクール&はがきキャンペーン合併版)をご寄贈申し上げます。

**趣旨** 令和5年に創立60周年を迎えるにあたり、「できる親切はみんなでしょう、それが社会の習慣となるように」をさらに目指し、みなさまの寄附金で運動の輪を広げてまいります。ご協力をよろしく願います。

**募集期間** 令和4年4月1日～令和5年3月31日

【申込方法】

1 本申込書にご記入の上、  
FAX: 03-3263-3838  
へお送りください。

2 スマホやPCからも申し込みできます。



個人用

法人用

「信州子どもカフェ」を支援  
長野発

評で、翌年に第2弾、今年には第3弾を5,000部作製し、市内の公民館や小中学校などへ配布しました。  
用語の選定は、田中寛支部代表ほか、役員が行っており、ニュースなどを見聞きする際に役立てたり、家族との会話のきっかけにもしてほしいと話しています。

近年、コロナ禍や物価高騰などの影響で、生活に困っている世帯が増加し、十分に食事がとれなかったり、学びの機会が減ってしまった子どもたちもいます。長野県では、こうした子どもたちを支援するため、地域住民が勉強をみてあげたり、食事の提供などをする「信州子どもカフェ」の設置を県内各地で進めています。



県からの感謝状を手にした浅井隆彦代表

長野県本部(事務局・八十二銀行別館内)では、この取り組みに賛同し、10万円を寄附。同県本部では、「一日も早くコロナが収束に向かい、子ども

竹田市では、市内の医師がごみ拾いを提唱し、火ばさみでゴミを拾う様子が、ゴルフのプレー中の姿に似ていたことから、「ゴミ(拾い)×(ゴルフ)」「ゴミフ」と名付けられ、市民参加の活動として定着。現在では、市主催で清掃活動を継続し、今年3年ぶりに、40回目となる「ゴミフ」が開催されました。

大分県本部は、この「ゴミフ」を長く継続してこられた竹田市と市民の皆様



土居市長(前列左から2番目)へ感謝状贈呈

「ゴミフ」でわが町を美しく  
大分発

たちが安心して元の生活に戻るよう願うばかりです」と話しています。